

## 摘 録

### ○長尾巧、筑豊夾炭層と古期岩層との境界の性質

筑豊石炭鑛業會月報第二十一卷第二百五十五號、

大正十四年九月

此問題に二の異なる見解がある。其の一は夾炭層沈積前に南向の斷層又は地裂を生じ、其溝狀地域に夾炭層が沈積したと言ひ其二は夾炭層沈積後に南北向の斷層又は撓曲を生じたと言ふので前者は鈴木敏博士之を説き後者は矢部長克博士之を唱へたるものである。筑豊炭田炭層の構造には一種特異の癖があつて地層は多くは北々西より南々東に走り西方にては東に緩斜し東にては突然逆轉して西方に急斜する。従つて向斜軸は東縁に近い。更に走向にやゝ斜なる多くの平行な斷層があり概して西落である。なほ本炭田の特殊なる癖は一の向斜で東西の境界線の性質が異つてゐる。即ち東西に古期岩層があるさ東では常に斷層であるが西では不整合である。著者は此構造は鈴木博士の見解の如くして、もし山間の凹所に沈澱した第三紀層が後に西方より來襲した横壓力を受けたものとするもよいが寧ろ夾炭層沈積後に起つた地質變動の爲め平準であつた地層が北々西―南々東に走る多くの略ぼ平行した地塊に分れ各區域の東部が西部に比し相對的に多く落下したTiltingをして其後の浸蝕で西部に古期岩層が露出するに到

つたと考ふる方が説明が簡單であるを結んでゐる。(鈴木博士の説を非なりとするにはもつと力學的に解くの要はないであらうか。單に説明が簡單なりとの理由で不充充分なる議論をする事が許されるとは思はれない)。(横山)

### ○長尾巧、佐世保炭田と唐津炭田との關係

筑豊石炭鑛業組合月報第二十二卷第二百六十號大正十五年二月、

唐津佐世保兩炭田の關係はすでに大藥學士の述べた如くで佐世保夾炭層は整合的に介化石を含める綠色砂岩上に位し後者は更に整合的に唐津炭層の上位にあるを知る。故に西北九州炭田中最上位は佐世保夾炭層と認める。綠色の介化石ある砂岩は即ち著者が以前芦屋層群と命じたものにあたり。上中部始新又は上部始新なるべく佐世保夾炭層は上部始新又は下部漸新ならんと思はれる。佐世保炭層の下部よりBrachyotus Japonicus Matsumoto なる偶蹄類が出た事を徳永博士が報じたので下部漸新であるといふ確證を得た。著者はなほ此炭層の關係を詳細に記述してゐる。(哺乳類が時代判定に過大視されがちである)。(横山)

## 新 著 紹 介

### ○北海道火山湖研究概報

田中簡秀三著 北海道廳發行 四六倍版一五五頁 大正十四年十一月印刷

本報告は北海道本島の重なる火山湖に就いて湖沼學的調査を記述したものである。著者は大正五年以來調査に従ひ、大正

十一年夏期北海道廳囑託として再びある湖水を調査した。本編に記載された湖水は次の八群である。(一)屈斜路湖、摩周湖、(二)阿寒湖、パンケ湖、(三)然別沼、(四)支笏湖、(五)クツタラウシ湖、カルルス沼(登別火山地方)、(六)洞爺湖、(七)半月湖、岩雄登大沼、長沼、狐狗狸湖、(八)大沼、小沼、蕨菜沼(駒ヶ嶽火山地方)。各湖に就いて附近の地貌、湖水成因、湖岸、湖盆形態、定常波(セイシユ)、受水、排水、水位水溫、水色、水の透明度、水質、生物、底質、利用等を甚だ詳細に記されてある。附するにコロタイプ版(風景)七葉、附近の地形をも表した湖水深度圖十葉、他の圖版三葉及挿圖を以て記事に一層の生彩を添えて居る。我國では稀に觀る湖沼學的調査書である。獨り湖沼學に寄與する所が大であるのみならず、餘り知られてない北海道の火山を明にした點に於ても重要な地學報文である。

### ○小川琢治分縣地圖

東京大阪博多成象堂發行

大少五十四纏×七十八纏 各葉別冊地名索引付定價五拾錢

大阪府 縮尺十二萬五千分一  
滋賀縣 縮尺十五萬分一 大正十五年三月發行

從來各府縣の一枚の地圖として世に行はれて居るものは地學的理解のない人達の手で描かれ發行されて居たが爲めに、地形は全々不明であるし、町や市の眞の大きさの考へを地圖から獲られなかつた。吾等は爰に小川氏の分縣地圖を手にする。こゝが出来て各府縣の地學的の現象を研究し、地理的要素を探す場合に學問的で然かも都合のよい、言ひ換へれば大衆的な

地圖に初めて出會つたのである。圖の特長を二三述べる。地形を表はす爲めには海拔百米、二百米、四百米、六百米、八百米、千米等の同高線が描かれ且つ數階の設色で高低が一目に判る様になつて居る。且つ百米以下は平地と臺地とで設色を違へて居る。其の色合もあまり濃くなくて註記を見る邪魔になつて居ない。市及人口一萬以上の町は赤色で實形が示されて居るのも嬉しい。湖水や川の主要部が藍で設色されてゐるのは無論であるが大分府圖葉に於ける大阪灣は三色で深度が示され、滋賀縣圖葉では琵琶湖の深度が同深線で描かれて居る。村名の字體が明瞭であるのは甚だよい、村界は記入されて居り、全部の大字名と多くの小字も註記されて居る。魯魚の誤は極めて稀で寧ろ日本地圖帖よりも此點は勝つて居ると云へる。普通の地圖は折ると切れ易いが、之を防ぐ爲めに本圖は裏打されてゐるのは實用を主眼として居るのを標榜して居ると看られる。地名索引は別冊をなした小冊子で之には獨り地名許りでなく圖上註記のあらゆる種類に亘つて居て雄略天皇陵もあれば生野中學校もあり、之等の位置を地圖上に直に探し求め得るから甚だ便利である。本分縣地圖は引續き發行されゆくと言ふことであるが、どうか日本全部に亘つて早く公にされたいものである。